



学校だより

7月号(第224号)
令和8年6月30日発行
横浜市立並木中央小学校

修学旅行を終えて

校長 齋藤 由美子

「子どもたちは、時間を守って活動していましたね。」

「◇◇さんは、班行動では、いつも友だちに親切な行動をしていましたね。」

「〇〇さんは、バスレク係で全体を盛り上げましたね。」

「土産を買うときは、家庭科での学習が活かしていましたね。」

6/25(木) 小雨の降る中、無事に日光修学旅行から帰校しました。学校は、毎回、宿泊行事や校外学習が終わったその日に、校長室で引率の教員全員でふりかえりをします。事前学習や当日の子どもたちの成長・課題、また健康や安全に関する点など、多岐に渡る話し合いをします。遅くまで部屋を見回り、朝は朝で、嬉しくて興奮し、5時前から起き出す子どもたちに対して、集団での生活の仕方を伝え続ける引率教員は、くたくたなはずなのに、このふりかえりの時間には、次から次と、子どもたちの成長の様子が出てきます。これまでの準備の過程で蓄えられた力と当日に発揮された姿を、教員たちは実に嬉しそうに語り合うのです。もちろん、良いことばかりではなく、明日からの指導で焦点をあてて意識させたいことなども出てきます。この場は、再度、指導者が同じ方向性をもって、子どもたちの指導にあたる新たな出発点となっています。

日光1日目は、足尾銅山へ。トロッコに乗って坑内の様子を見学し、日本の近代化を支えた一つを勉強しました。続いて向かった華厳の滝は、湧水の影響で水量は少なかったものの、絶景に驚く子どもたちでした。湯元の源泉では、子育て中の猿の群れに遭遇し、行く手を阻まれ、安全上、人間は敢え無く退散。2日目は、自然豊かな日光東照宮が、しとしと雨に濡れ、より緑濃く、荘厳な雰囲気子どもたちを迎えてくれました。初めて見た江戸から伝わる400年の世界遺産は、子どもたちの目にどのように映ったのでしょうか。

往復のバスの車内では、バスレク係が計画したことを120%実行し、全体を盛り上げました。狭いバスの中で、自分や仲良しの友達だけで楽しむのではなく、全体で楽しい空気を創り出すことの価値に気づいた子どもたちが何人もいました。修学旅行のめあてのサブタイトル ～パワーアップ フォローアップ、チームアップ～の姿が、子どもたちの実際の姿として、あちらこちらにきらきら光って見えました。

帰校した翌日、子どもたちは、教室でふりかえりをしていました。この修学旅行の全ての取組を通して考えたこと・これからの生活に活かしていきたいことが、どの子のワークシートにも、細かな字でびっしり書かれていました。